

インドから象がやってきた！ 『すべての武器を楽器に！』喜納昌吉の物語



那覇市医師会 長嶺 信夫
(e-mail : nagamine1128@yahoo.co.jp)

1. はじめに

♪ ～川は流れて どどこ行くの～ 人も流れて どどこ行くの～ そんな流れがつくころには 花として 花として 咲かせてあげたい～ ♪

喜納昌吉のこの歌曲を知らない人はいない。『花～すべての人の心に花を』の歌曲である。

喜納は 1948 年 6 月 10 日、米軍占領下の越来村（現・沖縄市）で琉球民謡の第一人者・喜納昌永の子息として誕生、ウチナー民謡に囲まれて育っている。バンド・喜納昌吉 & チャンプルーズを率い、琉球民謡を現代風にアレンジしたウチナー・ポップを確立している。現在、77 歳だが現役。

喜納といえば、いろいろな評価がある。革新で、元国会議員、平和運動・活動家として保守陣営からは一目おかれた存在である。心意気が強く、アヒンサー（不殺生）の強い信念のもとでの平和活動は世界各地で高い評価を得ている。

2. インドから象をもらい受ける

喜納の貢献で「沖縄こどもの国・動物園」に象が贈られたことを知っていた筆者は、2025 年 7 月 22 日、喜納昌吉と秘書の石岡裕に面談、沖縄こどもの国に象が贈呈された経緯について詳細に聞き取りを実施した。以下、その内容を記載する。

2002 年 2 月にインドで開催された「日印国交樹立 50 周年記念コンサート」にインド政府から招聘された機会を生かして、喜納はジョージ・フェルナンデス国防大臣に「平和のモニュメントを作るため」、インド政府より壊れた武器を提供してもらえるよう申し入れをした。

喜納の心意気に感服していたジョージ・フェルナンデス国防大臣は 2002 年 7 月、訪日した際に壊れたライフル銃を自ら持参。この壊れた銃は、京都の知恩院で大臣同席のもと、アフターブ・セット駐日インド大使から喜納に贈呈された。この時、喜納はフェルナンデス国防大臣に



『すべての武器を楽器に！』京都・知恩院で行われた壊れた武器の贈呈式、写真右端：アフターブ・セット 駐日インド大使、左端：喜納昌吉（2002 年 7 月 7 日撮影、石岡裕氏提供）



こどもの国のインドゾウ、琉人と琉花（こどもの国のホームページより）



喜納昌吉との面談、左から、喜納昌吉、長嶺信夫、長嶺尚子
(2025年7月22日撮影)



インド・フェルナンデス国防大臣を訪問した喜納昌吉および
沖縄市派遣団、右端：喜納昌吉、中央右：フェルナンデス・
インド国防大臣 (2003年12月9日撮影、文献2より転載)

沖縄三線を返礼として贈っている。

この式典は、朝日新聞の1面で取り上げられるなど、全国で報道され大きな反響を呼んだ。

ほどなく、このニュースを耳にした沖縄のある方から喜納に相談の連絡が入った。「武器がもらえるのだったら、象ももらえるのではないか」というものであった。考えてみれば、調子のいい話である。

戦時中の上野動物園での「可哀想な象の物語」を知っていた喜納は、心を動かされた。喜納は翌年2003年5月、インドにフェルナンデス国防大臣を訪ね相談した。大臣は快く象をプレゼントすることを約束したという。

喜納は、沖縄こどもの国を運営している沖縄市と精力的に調整を重ねた上で、2003年12月9日、沖縄こどもの国の動物園関係者とともに、インドのフェルナンデス国防大臣を訪問した。喜納の心意気に日頃から感心していた国防大臣は、こどもの国のため、象を提供することを確約し書面が訪問団に手渡された。男同士の絆のなせる業である。筆者はそう考えている。

2003年12月17日、沖縄市の当時の市長の仲宗根正和は喜納とともに記者会見を開き、インドより象が贈られることを発表、県内のマスコミで報道された。子供たちの喜びにあふれた姿は想像に難くない。

しかし、その後、インドの政権交代、絶滅危惧種動物に関するワシントン条約による規制、

動物愛護団体の強い反対などで象の贈呈事業は困難をきわめた。

2007年12月26日、関係者の様々な協力や努力のもと、幾多の困難を乗り越え、「動物交換」の形をとり、インドのダージリンの動物園から飛行機を乗り継いで、こどもの国に雌雄2頭のインドゾウが到着した。

3. こどもの国でのインドゾウの来園式典

象の引き渡しセレモニーには体調をくずしていたフェルナンデス国防大臣の名代として、M.M. ジョーシ前文部科学大臣がアフターブ・セット元日本駐在インド大使とともに来沖、2008年5月9日、喜納昌吉の主催で、パシフィックホテルを会場に盛大な歓迎式典が開催された。

歓迎式典で、筆者・長嶺信夫は喜納の指名で、象の贈呈を祝うとともに大臣に歓迎の挨拶をした。すでに沖縄には、沖縄菩提樹協会を設立した沖縄県民有志の働きかけで、インド大菩提協会から贈呈された「ブッダゆかりの菩提樹」が2004年5月に糸満市の「沖縄菩提樹苑」に植樹されていた。筆者は「菩提樹とインドゾウが世界の恒久平和を希求する象徴として役立つように！」と挨拶をした。

2008年5月12日、M.M. ジョーシ前文部科学大臣、駐日インド大使館のバッターチャリヤ公使を迎え、沖縄こどもの国で象の来園式典が開催され、式典の様子は沖縄のマスコミで報道さ

れた。しかし式典会場に喜納の姿はなかった。主催者である沖縄市からの式典招待者名簿に喜納の名前はなかったのである。喜納自身「喜納が民主党だから、案内状が来なかったのだろう」と語っていた。その他の関係者には案内状が届いていた。筆者は象の贈呈事業に最大の貢献をした喜納昌吉が式典に招待されなかったことに、大きな疑問を抱いている。

来園式典の頃、喜納昌吉と石岡裕は個人的に動物園を訪れている。

4. あとがき

この度、筆者が喜納昌吉に関する記事を書いた最大の理由は、喜納の平和活動や沖縄こどもの国への象の贈呈に関する貢献が、沖縄県民に十分周知されていないことを危惧したためである。

こどもの国に象が来たことは、動物園を訪れる子供達の大きな喜びである。喜納昌吉および石岡裕の貢献が忘れられずに、末永く語り継がれることを希望する（2025年7月記）。



壊れた武器の贈呈式典でジョージ・フェルナンデス国防大臣と抱擁する喜納昌吉
(京都・知恩院にて、2002年7月7日撮影、石岡裕氏提供)

参考文献

1. ウィキペディア：「喜納昌吉」
2. 沖縄市・企画部振興開発室長・島袋芳敬：インド政府訪問の報告書（概要）平成15年（2003年）12月16日
3. 石岡裕：インドゾウものがたり（未公表）

お知らせ

沖縄県文化観光スポーツ部観光振興課からのお知らせ

おきなわ医療通訳サポートセンターについて

沖縄県では、外国人観光客の医療問題に対応すべく、多言語コールセンター（名称：おきなわ医療通訳サポートセンター）を開設し、医療機関向け①電話・映像医療通訳サービス②簡易翻訳サービス（医療機関向け）③インバウンド対応相談窓口（医療機関向け）をすべて無償で実施しております。

各医療機関におかれましては、是非、有効利用下さいますようお願い申し上げます。

【問い合わせ先】
「おきなわ医療通訳サポートセンター」
医療通訳サービス運営事務局
(受託事業者：株式会社 BRIDGE MULTILINGUAL SOLUTIONS)
☎ 0570-001-003

無料

24時間365日対応



① 電話・映像医療通訳サービス (26カ国語対応)

0570-050-232

② 簡易翻訳サービス (19カ国語対応)

okinawairyou-honyaku@bridge-ms.com

9時～17時・平日

③ インバウンド対応相談窓口

okinawairyou-soudan@bridge-ms.com
0570-050-233



←詳細はこちらからご覧ください
<https://www.pref.okinawa.jp/site/bunka-sports/kankoshinko/ukeire/iryoutuyakukoruseritar.html>